

資金分配団体プログラム・オフィサー（PO）研修

組織評価

非営利組織評価センター
JAPAN CENTER FOR NPO EVALUATION

1. 団体概要

- ・ 非営利組織評価センター

2. NPOの評価

- ・ 組織評価の必要性

3. 制度説明

- ・ 第三者組織評価「ベーシック評価」

【参考】グッドガバナンス認証とは



1. 団体概要

(一財) 非営利組織評価センター (JCNE)

2016年4月1日設立

役員等：評議員7名 理事8名 監事1名

スタッフ：常勤4名 非常勤1名

現在は、日本財団の助成金で運用

目的

社会に対して、客観的かつ信頼性のある組織評価情報を提供し、非営利組織の信頼性向上を目指し、さまざまな支援がNPO等が届く仕組みをつくる

組織の特徴

- ・ 全国レベル、分野共通の非営利組織の評価機関の設立は初の試み
- ・ 助成財団、NPO支援組織などが協力して設立

事業内容

2016年度：NPO法人・一般法人を対象にベーシック評価制度を開始

2017年度：アドバンス評価制度を開始

2018年度：グッドガバナンス認証制度を開始

2019年度：公益法人・社会福祉法人も対象に



JCNEの設立発起人

設立発起人 ※五十音順



株式会社
ALMACREATIONS



特定非営利活動法人 NPO
サポートセンター



特定非営利活動法人 岡山
NPOセンター



特定非営利活動法人
CANPANセンター



特定非営利活動法人 き
ょうとNPOセンター



公益財団法人 公益法人
協会



特定非営利活動法人 シ
ーズ・市民活動を支える
制度をつくる会



一般財団法人 社会的認
証開発推進機構



一般社団法人 全国コミ
ュニティ財団協会



特定非営利活動法人 せ
んだい・みやぎNPOセン
ター



一般財団法人 地域公共人
材開発機構



公益財団法人 トヨタ財団



公益財団法人 日本財団



一般社団法人 日本障害
者就労支援協会



認定特定非営利活動法人
日本ファンドレイジング
協会



日本の組織評価認証機関として



International Committee on Fundraising Organizations
The association of national charity monitoring agencies



ICFO（設立1958年） <https://www.icfo.org/>

ヨーロッパ、北・中・南米、アジアなどの20か国の機関で構成される。

2017年、JCNEは日本の組織評価認証機関として正式加盟。

毎年、全ての国の機関が集まり、総会で評価認証に関する研修会を実施。

寄付額増加への効果や各国の評価基準についての意見交換を実施している。



世界の組織評価認証機関

- 諸外国では「チャリティ団体の評価認証」が実施され、情報公開が評価機関と政府の協力の元に行われている。

CCCC Canadian Council
of Christian Charities

DZI German Central Institute
for Social Issues

China Charity
Information Center

Charity Navigator

Comité de la Charte



BBB

wise Giving Alliance

Fundación Lealtad

Charity Tuner

Construyendo organizaciones

Credibility Alliance

Philippine Council
for NGO Certification



Instituto Phomenta



OBJECTIVES（目的）

組織運営を評価・公開

改善のためのフィードバック



Vision（目指すこと）

社会からの信頼性向上

NPOの力量・質の向上



Goal（目標）

NPOによる社会課題の解決

非営利組織評価センターの評価・認証制度

ベーシック 評価

法令・定款通りに組織運営を行っているか？

【書面評価】

- ・ 23基準
- ・ 書類提出

アドバンス 評価

活動・組織運営のプロセスがしっかり出来ているか？

【訪問評価】

- ・ 27基準
- ・ 評価員が訪問
- ・ 3時間ヒアリング

グッドガバ ナンス認証

すべての基準を満たしていれば認証

【認証審査委員会】



グッドガバナンス認証

【対象法人】

NPO動法人（認定を含む）／一般社団・財団法人（非営利型）／公益社団・財団法人／社会福祉法人

これまでの評価実績（2019年9月末）

ベーシック評価

	2018年度	2019年度	
申込受付団体	32	35	（累計166）
評価結果確定団体	31	29	（累計102）
うち評価結果公開団体	25	27	（累計91）

アドバンス評価

	2018年度	2019年度	
申込受付団体	26	0	（累計26）
評価結果確定団体	23	0	（累計23）



非営利組織評価センターが目指すもの①

非営利組織（NPO）の信頼性をカタチにする

- 第三者機関によるNPOの組織評価
- 民による民のための組織評価・認証制度

第三者組織評価を通じてNPOが得られるものとは

- 第三者機関による評価を受けているという信頼性
- 評価プロセスを通じた改善・組織基盤強化



非営利組織評価センターが目指すもの②

非営利組織（NPO）の信頼性をカタチにする

- 第三者機関によるNPOの組織評価
 - ・ 第三者が客観的な評価を行うことによる信頼性の向上
 - ・ 評価プロセスを活用したNPOの基盤強化、体質改善
- 民による民のための組織評価・認証制度
 - ・ 官によらず、セクター自らによる信頼性の向上
 - ・ 評価・認証制度によるNPOの信頼性の可視化
 - ・ 安心して支援（資金提供、協働）できる環境づくり

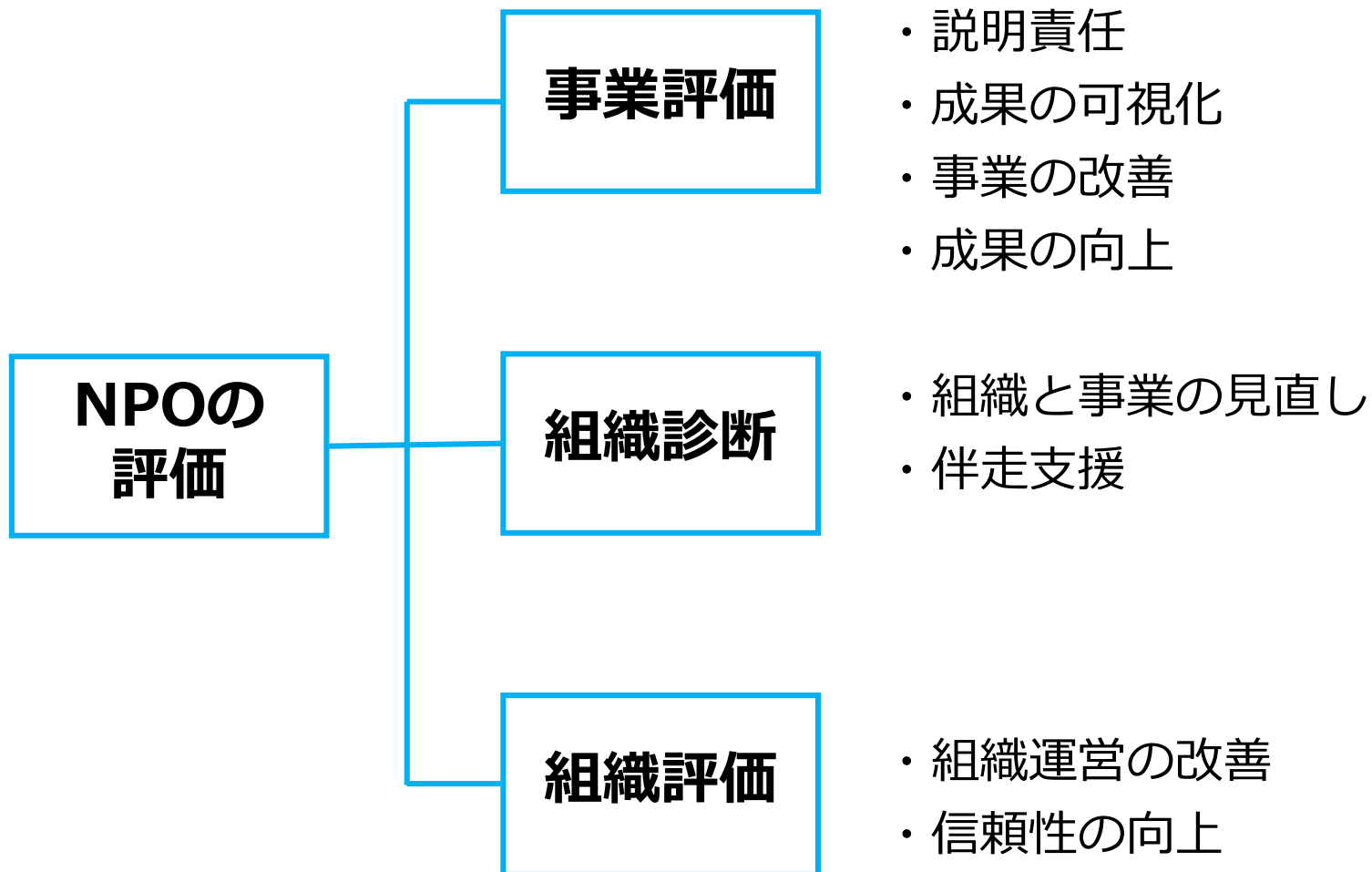
目標：支援の増加、新規支援者層の開拓、NPOの基盤強化



第三者組織評価を通じてNPOが得られるものとは

- 第三者機関による評価を受けているという信頼性
 - ・ 統一した基準と判断による客観的な評価
 - ・ 支援者が確認することができない裏側もチェック
- 評価プロセスを通じた改善・組織基盤強化
 - ・ 振り返りや見直しのプロセス
 - ・ 信頼性向上を目指す姿勢
 - ・ しっかりやっていることの再確認
 - ・ 不足部分の発見と改善

2. NPOの評価



◎組織評価：特定の評価基準に基づき、組織の状況を診断する

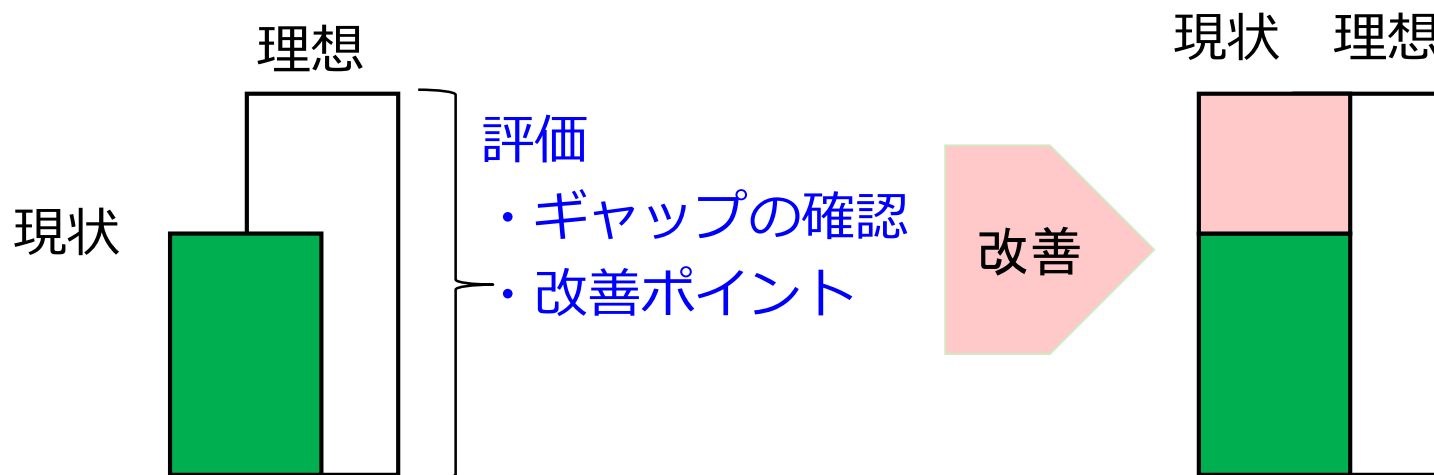


評価が語られる文脈：組織評価

- ① 信頼性の向上
- ② 信頼性のアピール
- ③ 客観的指標に対する資金提供者のニーズ
- ④ 選考・審査の指標や参考情報
- ⑤ 組織運営（ガバナンス等）の改善
- ⑥ 第三者によるアドバイス
- ⑦ 管理部門の地位向上
- ⑧ 組織の持続性
- ⑨ ガバナンスやコンプライアンス意識の向上
- ⑩ 認定NPO法人取得の準備



組織評価

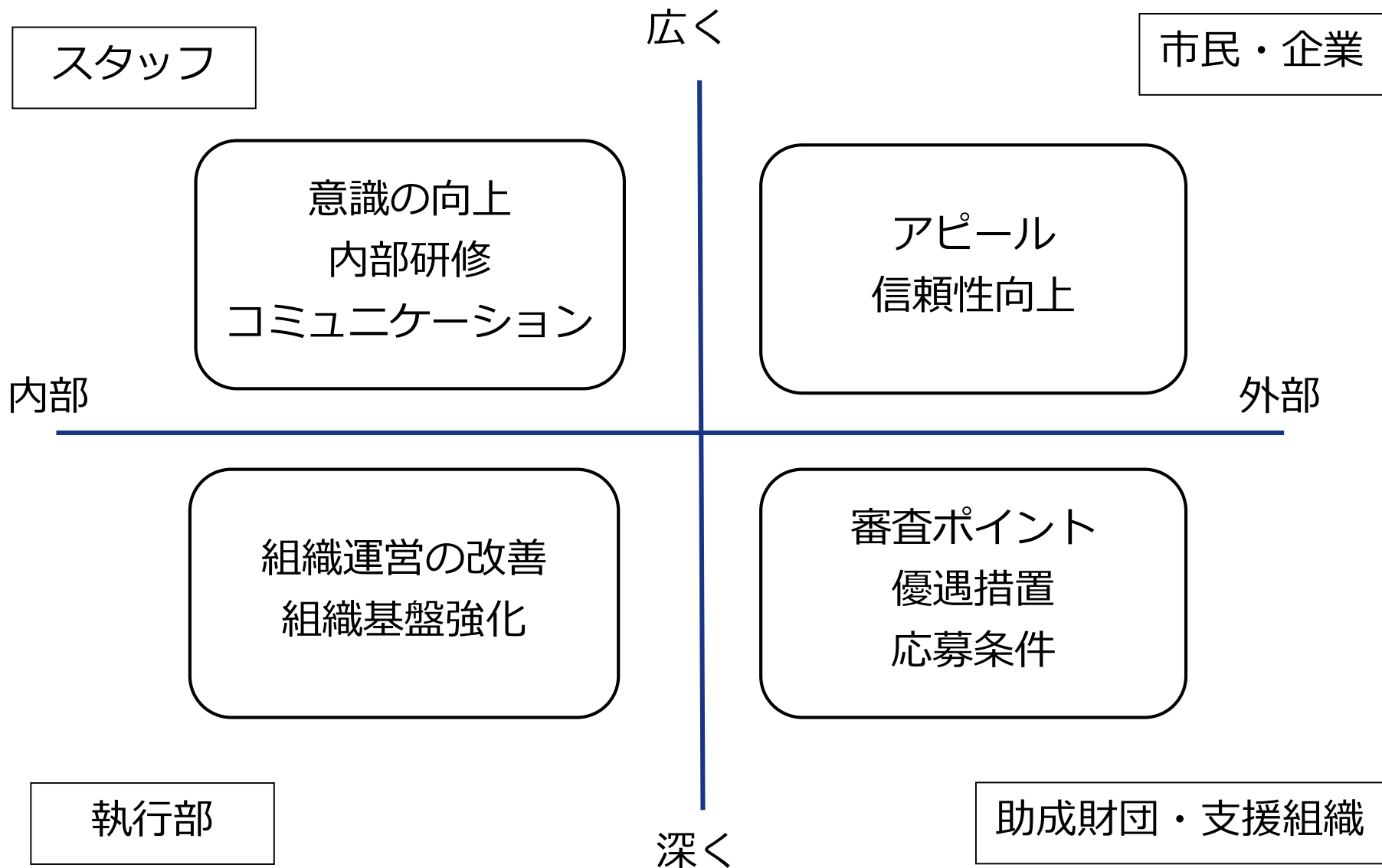


★NPO法人・一般法人の現状

- ・団体設立後、ガバナンスやコンプライアンスの状況について、外部の第三者からチェックを受けたことがない。
- ・「不正」ではなく、不足や不備が目立つ。

- ①ブラックリストではなくホワイトリスト
- ②評価ではなく診断
- ③評価プロセスを通じての組織改善や基盤強化
- ④NPOの管理部門のエンパワメント
- ⑤信頼性のアピールツール

組織評価の活用



1. ガバナンスやコンプライアンス

- ①組織の状況のチェック
- ②公募の選考時の参考情報
- ③採択後の基盤強化
- ④国民への説明責任

- ①公募時のガバナンス意識の向上は必須
- ②外部の制度の活用を考える

2. 信頼性

- ①自立した担い手や出口戦略のための資金調達を視野に
- ②信頼性は、継続的に維持していくもの
- ③多様なステークホルダーとの協働のための組織間信用

参考：資金分配団体公募資料より

(表 A) 団体情報 必須項目一覧

団体情報必須項目一覧		
	項目	入力形式
入カステータス	入カステータス(状況)	選択
基本情報	団体名	記述
	設立年月日	選択
	団体の種類	選択
	代表者の役職	記述
	代表者の氏名	
	郵便番号(〒)	記述
	住所	
	TEL(電話番号)	記述
	Email(メールアドレス)	記述
第三者評価	「過去3年以内に非営利組織評価センター(JCNE)による評価を受けていますか」	選択

非営利組織評価
センターの組織
評価

JANPIA資料より



任意団体

一般社団法人・一般財団法人

NPO法人（特定非営利活動法人） ⇐ 非営利組織評価センター

認定NPO法人

社会福祉法人

公益社団法人・公益財団法人

株式会社

ケース 1：助成金申請時の活用

- 申請団体の信頼度、運営状況を確認する方法として、申請書に組織評価の実績の有無を確認する。
- JCNE限定ではなく、その他の組織評価も含めて確認する。
- 申請団体に対して組織評価の意義を伝える広報効果（助成財団からのメッセージ）。

【組織評価の確認をしている助成機関】

- ①三菱財団 ②地球環境基金 ③麒麟福祉財団
- ④損保ジャパン日本興亜福祉財団 ⑤日本財団
- ⑥日本民間公益活動連携機構（JANPIA）（休眠預金）
- ⑦トヨタ財団 ⑧日本郵便



ケース2：助成先団体の組織基盤強化

公益財団法人ベネッセこども基金

「経済的困難を抱える子どもたちの学び支援活動助成」

助成決定：7団体

- 経済的な困難により学びに課題を抱える子どもたちの支援活動に取り組む団体への助成。
- 中長期視点で取り組む事業を複数年（最大3か年）支援する。
- 複数年の支援の中で、助成先団体の事業基盤強化を行うために、JCNEのアドバンス評価を活用した研修を実施。
- 支援先団体の成長発展のために、組織評価を活用するモデル事例。

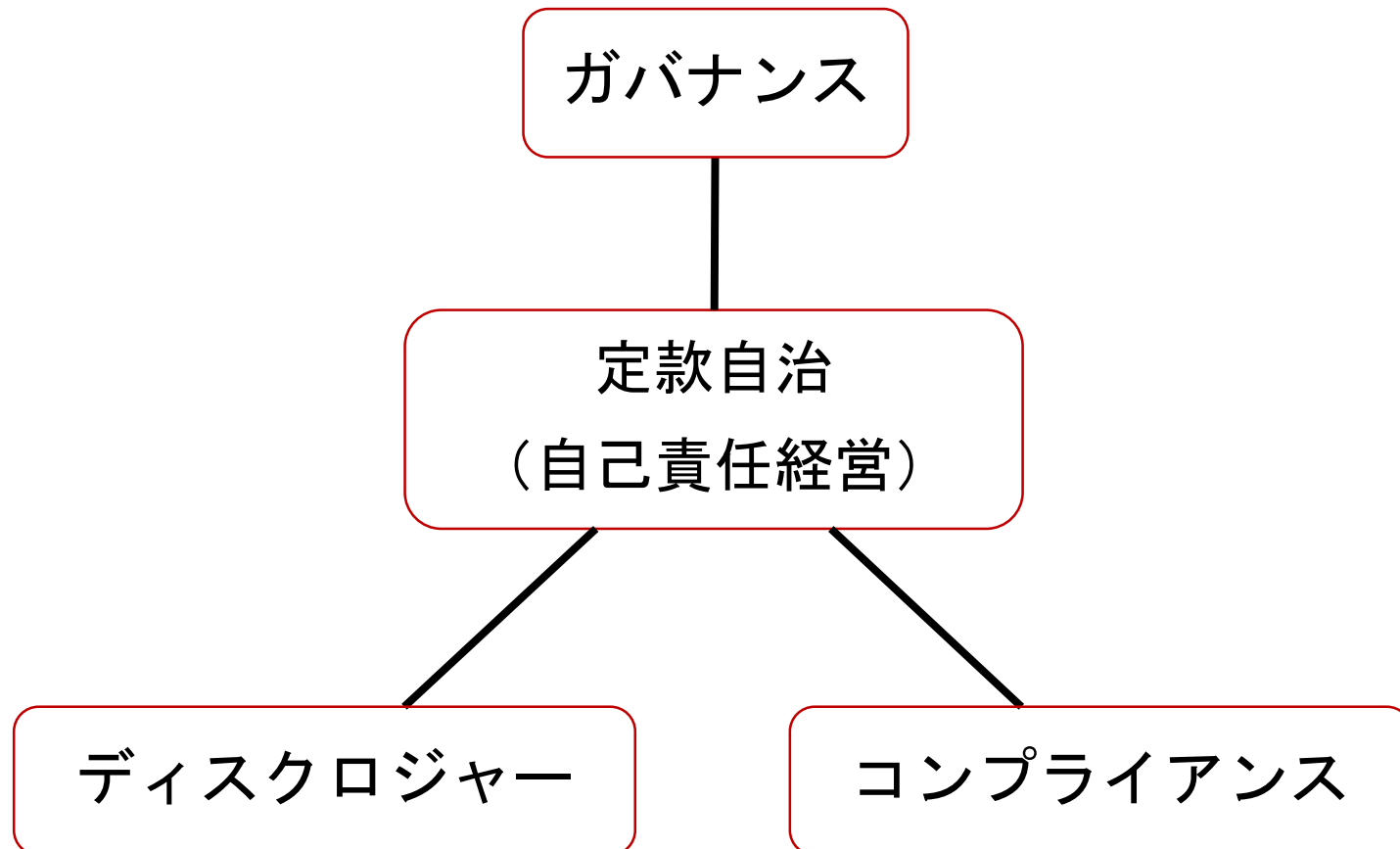


法は「自由と発展」に伴うガバナンスを求めている

(目的)

第一条 この法律は、特定非営利活動を行う団体に法人格を付与すること並びに**運営組織及び事業活動が適正**であって公益の増進に資する特定非営利活動法人の認定に係る制度を設けること等により、ボランティア活動をはじめとする**市民が行う自由な社会貢献活動としての特定非営利活動**の健全な発展を促進し、もって公益の増進に寄与することを目的とする。

非営利組織の経営原則



第三者組織評価 「ベーシック評価」 評価基準（別紙）の解説

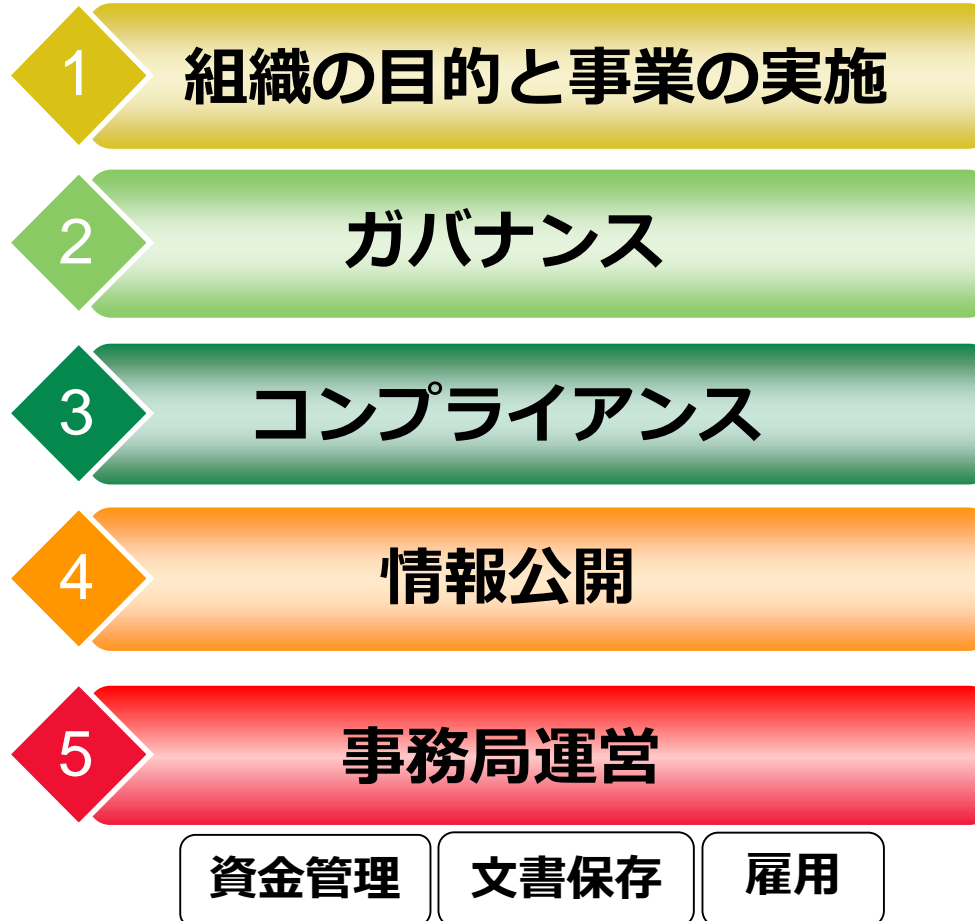
- 対象：特定非営利活動法人（認定を含む）、一般社団・財団法人（非営利型）、公益社団・財団法人、社会福祉法人
- 評価手法：自己評価結果に基づいた書面評価
- 評価基準：23項目（雇用がない場合20項目）
 - ① 法律や定款通りに運営を行っているという基礎部分を評価
 - ② 分野/事業内容・組織規模を問わない評価基準
 - ③ 「はい」「いいえ」で答えられる基準
 - ④ 書面で第三者が確認できる内容

⇒評価過程と結果を通じて組織の基盤強化に役立つものを提供



第三者が何を評価するのか？

- 評価の5分野：社会へ自己アピールしづらいものを対象



ベーシック評価のQ&A

- どれくらい手間がかかるのか？
自己評価で 1 時間、書類準備で 3 ～ 5 時間。
- NPOがベーシック評価を受けた方がよい理由は？
多くの団体がガバナンスのチェックを受けたことがない。
最初の勘違いがそのままになっているケースがある。
不正の摘発ではなく、不備・不足の発見。
- NGだった基準はどうすればいいのか？
各基準毎に改善されれば再評価申請。基準によって、必要な時間が変わってくる。
 - ・ すぐに対応できるもの
 - ・ 理事会の開催などタイミングがあるもの
 - ・ 組織内の意思決定のルールがあるもの



評価を受けた団体からのコメント

- 組織基盤を強化していくには「チャンス」だと思い評価を受けさせていただきました。
- NPOは誰かの想いで生まれ、みんなの想いに支えられていると思っています。だからこそ、評価を受け「信頼」を高めることは大切なことだと感じました。
- 評価に挑戦したことで、一つ一つの日々の業務の積み重ねが、評価の結果へと繋がったように感じられ、肯定感が上がる思いです。
- 理事等に対して、組織運営の改善について、評価結果をもとに提案することができた。



自己評価の取り組み（事例 1）

認定NPO法人アカツキ（福岡県）の自己評価の取り組み

アカツキでは、組織評価の取り組み準備として、団体内部で自己評価の趣旨を共有・確認し、担当者を決定した後、会員に向けて自己評価協力者の募集を行いました。結果、2名のサポーター会員がボランティアとしてご協力くださり、自己評価に取り組むことができました。

当日は、1人の会員が基準を質問形式で1つずつ読み上げ、代表理事および事務局長がそれに答えました。もう1人の会員が回答を書き起こし、事務局長が内容を整理して代表理事に確認のうえ書類を完成させました。

認定申請時に情報公開の体制を整えていたため、いずれもスムーズに進み、1時間程度の労力で済みました。

提出用のエヴィデンスを準備する作業には時間を要しましたが、どの情報がどこにあるか、職員内での共有が進む効果がありました。また、自己評価のプロセスで会員に加わってもらったことで、普段は組織の外側にいらっしゃる支援者への報告や情報公開、コミュニケーション向上の機会となりました。



自己評価の取り組み（事例 2）

認定NPO法人カタリバ（東京都）の自己評価の取り組み

カタリバでは、組織基盤の構築に取り組んでいる経営管理本部の職員 3 名で自己評価を行いました。

これまで、認定NPOの取得や、学校や行政委託などの事業を推進する上で求められる法令等の基準に対応する中で組織基盤を構築してきました。今後ますます多くのステークホルダーの期待に応えられるために、より高い基準で基盤作りを行いたいと考えていましたが、改善の観点や方向性が見つけられずにおりました。

今回、非営利組織評価の基準を元に自己評価を行うことで、組織基盤を構築するための基準となる尺度を示していただき、自分たちの取り組みに自信を持つと同時に、実際の運用はできていても規程として整備していなかった、文書保管のルールを規定化するなど、クリアすべき課題を明確にすることができました。

これにより、組織が継続して安定的に活動を行う基準となるものができ、自信をもって基盤の構築にあたることを可能とし、さらなる成長の機会をいただくきっかけとなりました。

自己評価の後の「評価経過」の通知を見て、今後も変化していく法令等に対応するとともに、社会や支援者の方々の期待に引き続き応えられるよう、定期的な見直しを行い、しっかりとした運営を行っていきたいと思いました。

組織評価によるねらい（メリット）

第三者からの視点による
学び

- ① 自己評価と第三者評価とのギャップが組織運営のヒントとなる。
- ② 評価のフィードバックコメントが組織運営のヒントとなる。
- ③ 実際に評価に取り組んだプロセスがスタッフ等の認識を変える。
- ④ 組織運営の改善につながる。

組織と事業を運営する際の
ステークホルダー・エンゲージメントの再認識



自団体の組織基盤強化と社会的な信頼性の2つへ繋がります。



評価・認証期間は3年間です。（例：2019年3月認証 → 期限は2022年3月まで）

	ベーシック 評価料	アドバンス 評価料	グッドガバナンス 認証料
小規模 【経常支出】 2000万円未満	10,000円	50,000円	40,000円/年間 (3年で120,000円)
中規模 【経常支出】 1億円未満	10,000円	80,000円	60,000円/年間 (3年で180,000円)
大規模 【経常支出】 1億円以上	10,000円	120,000円	150,000円/年間 (3年で450,000円)

※表示は、税抜き価格

※更新割引：ベーシック評価料8,000円

アドバンス評価 小40,000円 中60,000円 大100,000円

※認証料について、3年間一括払いの場合は20%引き



お申し込みの流れ

1

書式をダウンロード <https://jcne.or.jp/catalog/>



2

自己評価に取り組み、書類を準備

3

フォームより申込み <https://jcne.or.jp/entry/>

審査ではありません
★現状のままで
お申し込み下さい！

4

【JCNE】受付と評価料の案内



5

評価料のお振込み

BANK

6

【JCNE】お振込みの確認と書類送付の案内



7

書類送付 メールまたはGoogle共有



- 規程類
個人情報保護規程（プライバシーポリシー）／
文書保存規程（文書保存ルール）／役員報酬規程（あれば）
- 会計関係
経費精算書もしくは支払伝票／納税証明書
- 雇用関係
雇用契約書／出勤簿／労災保険および雇用保険の保険料領収書
- 会議関係
議事録と招集通知（総会および理事会）
- 組織運営
定款／事業計画・予算／事業報告・決算／監査報告書／
役員名簿／社員名簿
履歴事項全部証明書／会報誌

※詳細は、HP掲載の「ベーシック評価申込のご案内」をご覧ください。





ベーシック評価のお申し込みは
Webからお申し込みください。

<http://jcne.or.jp> 非営利組織評価センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目1 1－2 日本財団第二ビル3階

TEL 03－6457－9721（平日9:30より17:30）

FAX 03－6457－9722

Mail office@jcne.or.jp





グッドガバナンス認証

非営利組織のための グッドガバナンス認証制度

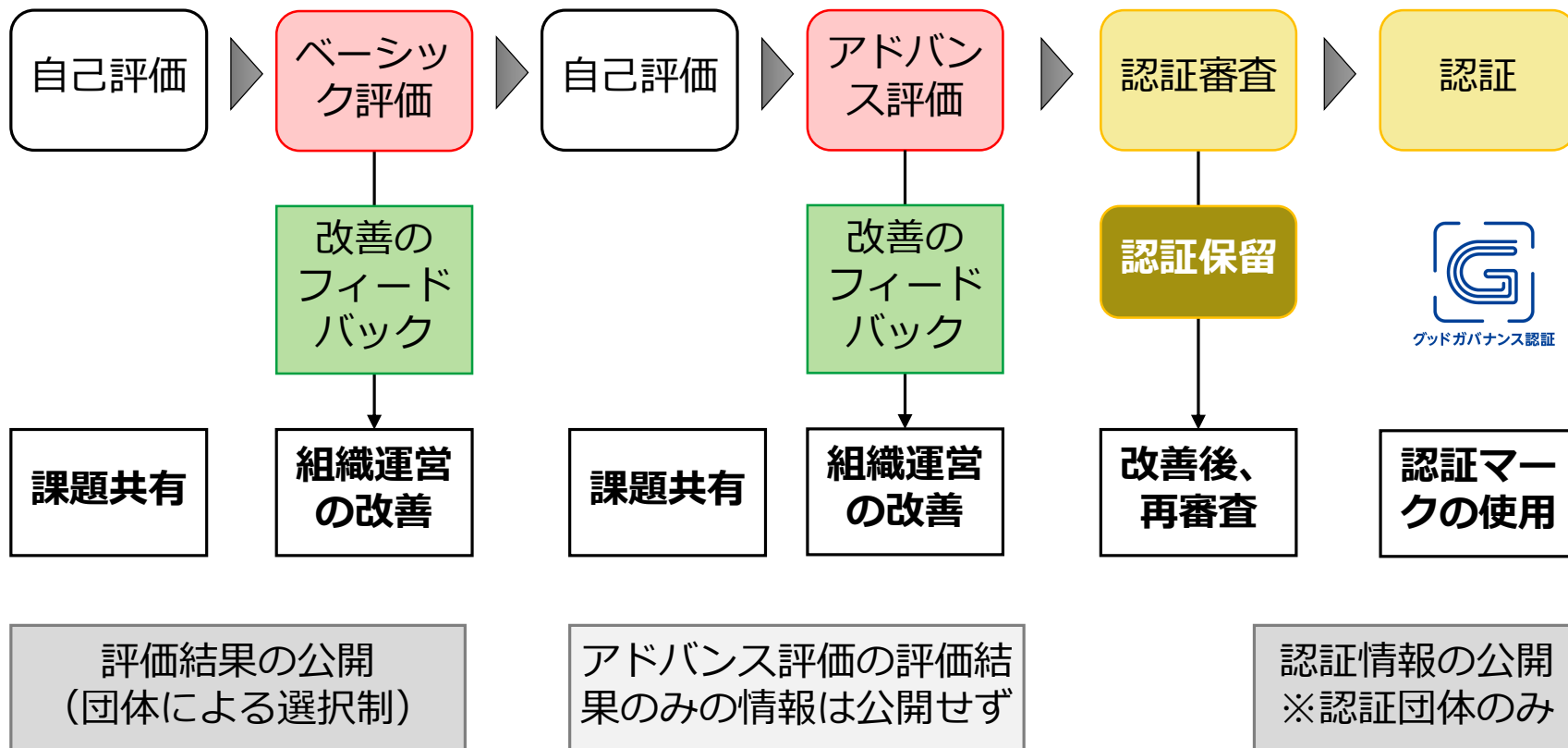
非営利組織評価センター
JAPAN CENTER FOR NPO EVALUATION

組織評価と認証制度

この制度は、「2つの組織評価」と「認証」で構成されています。

組織評価 (JCNE)

グッドガバナンス認証 (JCNE)



組織評価と認証制度

	ベーシック評価	アドバンス評価	グッドガバナンス認証
基準	5分野 23評価基準	4 領域12項目 27評価基準	評価結果情報 財務情報、その他情報
目的	基礎的な組織運営の状態を第三者として判定するとともに、改善提案を行う	より高度な視点で、組織運営と業務遂行の状態を第三者として判定し、改善提案を行う。あわせて、認証の審査情報として利用する	JCNEが定めた、NPO運営の適正水準に達しているかどうかを判定し、団体の認証を行う。
手法	申込時に提出された書類をもとに、評価基準を満たしているかどうかを評価（書面評価）	提出書類と、事務所訪問によるヒアリングと根拠書類チェックをもとに、評価基準を満たしているかどうかを評価（訪問・評価）	評価結果情報と財務情報をもとに審査
判定者	◇専門性を持っている外部評価員 ◇研修受講の外部評価員 ◇経験を積んでいるJCNE役職員	◇研修受講の外部評価員 ◇研修受講のJCNE役職員	◇事務局による認証候補団体リストの作成 ◇認証審査委員会



- 対象：NPO法人（認定を含む）、一般社団・財団法人（非営利型）、公益社団・財団法人、社会福祉法人
ベーシック評価ですべての基準を満たした団体が対象
- 評価手法：書面評価と訪問評価
- 評価基準：27項目（適用除外可能なもの6項目）
 - ① 分野/事業内容・組織規模を問わない評価基準
 - ② 事前の書面評価と3時間の訪問調査の構成
 - ③ 事業のプロセスやガバナンスの状況をヒアリングし、評価

⇒評価過程と結果を通じて組織の基盤強化に役立つものを提供

市民社会

市民参加と連携・協働

市民ベースによる自由な発想と市民参加に基づく活動形態、セクターを超えた協働による価値創造

自立と自律

組織のマネジメント、総会、理事会、監事の権限分配と、主体的な意思決定と執行

外部志向

内部の整備

社会的責任と信頼

事業活動を実践する上で必須となる、組織の内部と社会に対する責任と情報公開

学びと創造

事業活動を実践する上で基盤となる、目的達成に向けたPDCAと持続可能な人材の育成

事業活動



評価項目の構成

社会が非営利組織がこうあるべき姿勢や姿を外部からの4つの視点に落とし、フレームワークを構築しています。

領域	項目（評価基準数）	
Ⅰ．学びと創造	受益者本位の視点によるニーズの把握と改善	(2)
	課題の共有と改善・創意工夫、及び人材の育成	(3)
	社会への情報発信と啓発活動	(2)
Ⅱ．市民参加と連携・協働	市民参加	(1)
	連携・協働	(3)
	寄付	(2)
Ⅲ．社会的責任と信頼	人権尊重と環境への配慮	(2)
	コンプライアンス	(2)
Ⅳ．自立と自律	事業運営	(3)
	リスクの管理	(1)
	ガバナンス	(4)
	財務と会計	(2)
4領域	12項目	27



支援者が求めている視点で評価をする

JCNEの評価軸（JCNEが考える「信頼性のカタチ」）

1. 学びと創造

⇒事業運営に関する組織の志向やプロセスを評価する

2. 市民参加と連携・協働

⇒市民社会を目指す組織の考え方・志向を評価する

3. 社会的責任と信頼

⇒社会への責任に対する認識と実践を評価する

4. 自立と自律

⇒自立志向、自律のバランス、ガバナンスを評価する



組織評価から何を認証するのか

社会に代わり非営利組織の経営原則の状態を認証する

事業運営

市民社会

市民参加／協働

事業活動

ニーズ把握／改善／人材育成

組織運営

ディスクロージャー

登記・公告／事務所備置き／定期提出／インターネット公開

ガバナンス

社員・総会／理事・理事会／監事

コンプライアンス

法令／定款・諸規程
／倫理／社会的責任



グッドガバナンス認証団体 (2019年9月末)

グッドガバナンス認証 累計13団体

【2018年度】6団体

NPO法人 こども∞感ぱにー (宮城県)

認定NPO法人 カタリバ (東京都)

認定NPO法人 自立生活サポートセンター・もやい (東京都)

NPO法人 消費者スマイル基金 (東京都)

認定NPO法人 アクト川崎 (神奈川県)

認定NPO法人 ポケットサポート (岡山県)

【2019年度】7団体

NPO法人 環境会議所東北 (宮城県)

認定NPO法人 日本ファンドレイジング協会 (東京都)

認定NPO法人 えどがわエコセンター (東京都)

NPO法人 地域福祉サポートちた (愛知県)

NPO法人 りんりん (愛知県)

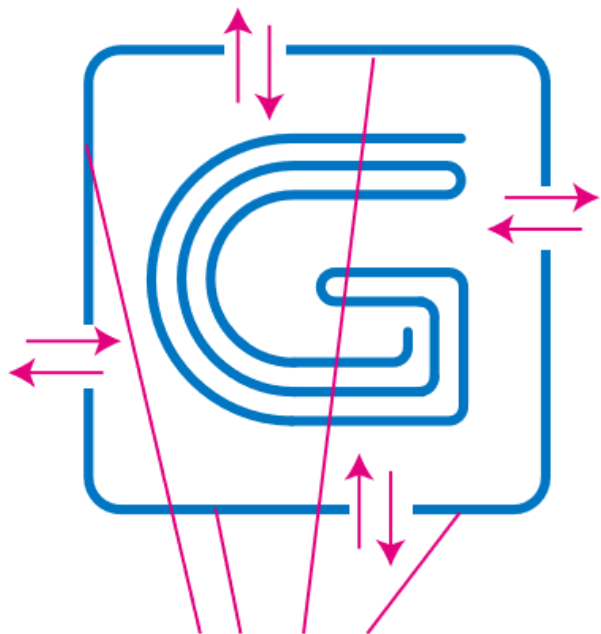
NPO法人 きょうとNPOセンター (京都府)

認定NPO法人 地球市民の会 (佐賀県)



認証マークについて

透明性、信頼性をあらわす G と社会とのつながり



認証評価の4領域「Ⅰ学びと創造」「Ⅱ市民参加と連携・協働」
「Ⅲ社会的責任と信頼」「Ⅳ自立と自律」を表しています。

認証されていること（＝4つのパーツで囲まれている）により、
社会とのつながり、風通しの良さも現れてくることが
表現されています。

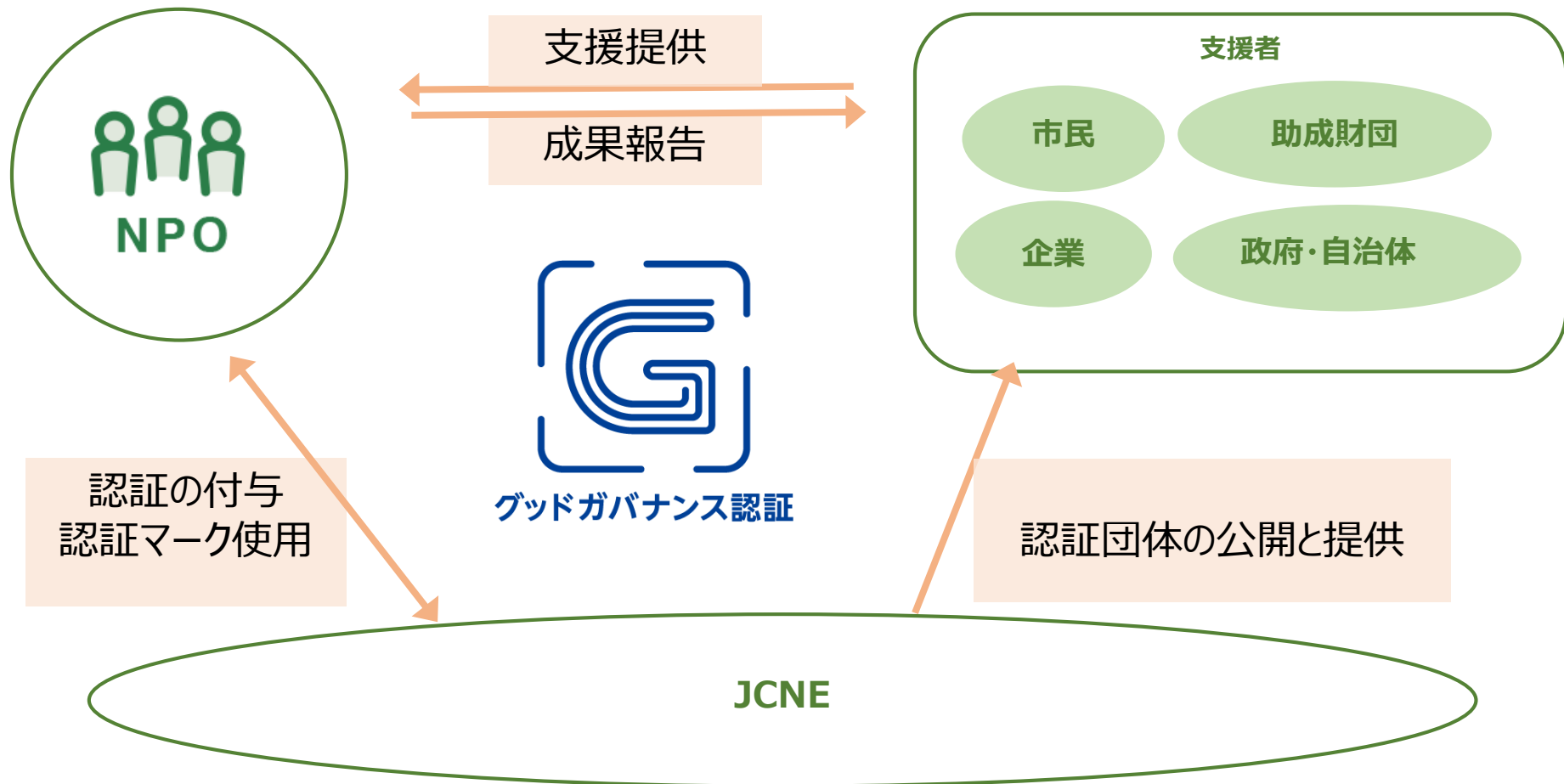
ガバナンスの頭文字「G」をモチーフにしています。
Gの文字は、中空きのようなデザインとなっており、
認証されたNPOの透明性、信頼性を表現しています。

Gを取り囲む四角は、4つのパーツにわかれており、
これが評価の4領域を表しています。また、パーツ間
の空きの部分は、風通しの良さ、社会とのつながりを
イメージするものとなっており、適正に認証されてい
る安心感、信頼性と社会へ溶け込むNPOということ
を表現しています。

ブルーのカラーと全体感はクールでクリアな印象で、
認証としての信頼性を醸成させ、丸みをもたせること
でやさしさを表現しています。

認証マークを活用するためのヒント

- しっかりしているガバナンスをマークでアピール。
- 信頼性のある社会的な組織と活動をマークでアピール。



認証取得後によるメリット

例



全国レガシーギフト協会



募金/寄付サイトPRツールとして

記載団体においては信頼性の証として

認証マークによる他団体との差別化

良いガバナンスを保っていることをアピール

物品寄付用PRツールとして

掲載の際のマーク取得団体の優遇

認証マークによる他団体との差別化

良いガバナンスを保っていることをアピール

助成/企業/行政用PRツールとして

支援先選定の際の参考情報

認証マークによる他団体との差別化

良いガバナンスを保っていることをアピール

遺贈の際のPRツールとして

遺贈の際の参考情報

認証マークによる他団体との差別化

良いガバナンスを保っていることをアピール

